

がん医療フォーラム仙台 2015

がん患者と家族の療養を考える

プログラム

2015年11月8日（日） 13:00～16:00

【あいさつ】片倉 隆一（宮城県立がんセンター総長）、奥山 恵美子（仙台市長）＊予定
13:10

【第1部】基調講演 地域で療養するがん患者さんのご家族を支える情報とは
がん患者さんとご家族のための在宅療養を支える情報づくり
渡邊 清高（帝京大学医学部内科学講座 腫瘍内科 准教授）
腫瘍内科医の立場から 薬物療法について
高橋 信（東北大学加齢医学研究所 臨床腫瘍学分野／東北大学病院 腫瘍内科 助教）
在宅緩和ケアの現場から
河原 正典（爽秋会岡部医院）

14:10 （休憩）

14:25
【第2部】フォーラム がん患者さんとご家族の療養を地域で支える
それぞれの生き方～ホームホスピスにできること～
今野 まゆみ（ホームホスピスにじいろのいえ）
臨床宗教師の取り組み－理念と現状－
高橋 原（東北大学大学院文学研究科 実践宗教学寄付講座 准教授）
寸劇（がん患者さんの在宅での療養をテーマとした寸劇）
60歳からの楽しいクラブ活動（えずこホール）参加者の皆さん、
仙南地区在宅ホスピスケア連絡会の皆さん

ディスカッション

【まとめ】森 隆弘
(東北大学大学院医学系研究科 教授／先進包括的がん医療推進室 室長)
16:00 終了 アンケートにご協力ください

がん医療フォーラム仙台 2015
がん患者と家族の療養を考える

登壇者プロフィール



渡邊 清高 (わたなべ きよたか)

帝京大学医学部内科学講座 腫瘍内科 准教授（腫瘍内科・がん情報）
1996年東京大学医学部卒。医学博士（消化器・肝臓内科）。内科、救命救急研修を経て、東京大学医学部消化器内科、国立がん研究センターがん対策情報センターを経て2014年より現職。地域におけるがん患者の療養支援情報 普及と活用プロジェクトリーダー。患者・家族、一般市民、医療従事者、研究者向けなど、がんに関する信頼できる情報発信と、現場のニーズに応じた普及の取り組みを実践しています。



高橋 信 (たかはし しん)

東北大学加齢医学研究所 臨床腫瘍学分野／東北大学病院 腫瘍内科
助教

1999年東北大学医学部卒。2005年東北大学医学系研究科大学院卒業後、宮城県立がんセンター化学療法科に勤務。2006年より東北大学病院腫瘍内科。2013年より現職。抗がん剤治療の最適化を目的としたバイオマークターに関する研究を行っています。診療は消化器がんを中心として、肉腫、原発不明がんなど、幅広く悪性腫瘍の治療を担当しています。



河原 正典 (かわはら まさのり)

爽秋会 岡部医院 医師。

名古屋出身。在宅緩和ケアを専門としている。

1999年 福島県立医科大学医学部卒。外科医として、仙台医療センター、仙台厚生病院などに勤務。2008年4月より爽秋会岡部医院に勤務し、故岡部健とともに、仙台圏の在宅緩和ケアに取り組み、現在は、全国の在宅緩和ケア・緩和医療の普及に取り組んでいます。



今野　まゆみ(こんの まゆみ)

一般社団法人 月虹(げっこう) 代表理事

ケアプラン・ヘルパーステーション虹色 管理者 ケアマネジャー
ホームホスピスにじいろのいえ 代表

1985年東北福祉大学社会福祉学科卒業。重度身体障碍者施設の介護職員を経て、2004年より医療法人社団爽秋会でケアマネジャーとして勤務。2014年4月にホームホスピスにじいろのいえを開所。がん患者さんを地域で支えるとは、どういうことなのか、医療と介護が本当のチームになるためには、どのような取り組みをしたら良いのかを改めて模索しながら、日々取り組んでいます。



高橋　原 (たかはし はら)

東北大学文学研究科 実践宗教学寄附講座 准教授

1994年東京大学文学部卒。2004年東京大学大学院博士課程（宗教学宗教史学）修了。博士（文学）。国際宗教研究所研究員、東京大学大学院助教（宗教学研究室）を経て現職。専門は宗教心理学。公共空間でケアを提供する「臨床宗教師」（日本版チャプレン）の育成に取り組んでいます。



森　隆弘 (もり たかひろ)

東北大学大学院医学系研究科教授（地域がん医療推進センター）1987年東北大学医学部卒。

国立水戸病院などで外科研修後、癌研・生化学部（中村祐輔部長）で消化器癌の研究に従事、1995年からコロンビア大学研究員(Medical Oncology部門)に採用。帰国後、古川市立病院、山形県立新庄病院、国立病院機構水戸医療センター、他で外科医として地域医療に従事後、2013年より現職。外科専門医、消化器外科専門医、内視鏡外科技術認定医、がん薬物療法専門医など。外科医、薬物療法医、研究者としてがん医療に取り組んでいます。

地域におけるがん患者の療養支援情報 普及と活用プロジェクト

<http://homecare.umin.jp/>

がん患者さんが、その人らしい生活を維持しながら、自宅や施設などの身近な場所で過ごすときに役立つ情報をまとめました。これまでのがん医療フォーラムでいただいた声、在宅での療養をよりよくしたい患者さん、ご家族の意見や提案をまとめる形でつくられています。地域でのフォーラム、アンケートなどを通して、顔の見える関係づくりを進めていくことが、がん患者さんを支える社会づくりの第一歩だと考えています。ぜひ、ウェブサイトをご覧ください。



「在宅療養ガイド」制作と
プロジェクト創設にいたるまで



渡邊 清高 さん

(帝京大学医学部内科学講座 准教授／腫瘍内科・がん情報)

公益財団法人 正力厚生会

<http://shourikikouseikai.or.jp/>

正力厚生会は、読売新聞東京本社からの寄付金などをもとに「がん患者さんとそのご家族を支援する」事業活動を行っています。主な助成実績は次の通りです。

〔がん患者団体への助成〕

がん患者団体による講演会開催や情報発信のためのサイト構築などの事業に対し、上限50万円を贈ります。2007年度からこれまでに、延べ186団体に助成してまいりました。2016年度助成の申請受付は、11月11日必着です。詳細は正力厚生会の公式サイトをご覧ください。

〔医療機関への助成〕

当フォーラムにかかわるプロジェクト（2012年度から）のほか、▽国立がん研究センター相談員養成講座（2006年度からの5か年）▽がん研究会有明病院データベース作成（同）▽医療機関による「がん」がテーマの小冊子作成（2010年度までに計10冊）▽東京大学医学部付属病院との共催シンポジウム▽静岡県立静岡がんセンター「Web版がんよろず相談Q&A」構築一があります。

〔読響ハートフルコンサート〕

QOL（生活の質）向上の一環として、2007年度から読売日本交響楽団のメンバーが全国のがん診療連携拠点病院などを訪問。弦楽四重奏を中心に患者さんやご家族の皆さん、医療従事者の皆様に質の高い音楽を楽しんでいただいている。これまで55医療機関で開催。2015年3月の山口公演で、全国47都道府県を一巡、現在二巡目に入っています。